

豊田合成株式会社

電子帳簿保存法への対応を行いつつ、ペーパーレス化とデータ利活用の基盤構築を実現しました。



TOYODA GOSEI

ゴム・樹脂の高分子分野とLED分野のトップメーカーとして、製品の企画・開発から生産まで一貫して手がけている豊田合成株式会社(以下、豊田合成)は、DataDeliveryを導入し、電子帳簿保存法の対応を行いました。DataDelivery導入の経緯と効果について、同社IT推進部 運用室 室長 古山剛氏(写真中央右)、同室 杉村政徳氏(写真中央左)、同社経理部 主計室 室長 土井淳二氏(写真右端)、同室 税務グループ チームリーダー 川面順氏(写真左端)にお話を伺いました。

豊田合成の業態

— 豊田合成について教えてください

ドア枠や窓枠に装着して隙間をふさぎ、雨・風・騒音を遮断するウェザーストリップ製品、燃料タンクやエンジン周辺の部品、コンソールボックスやラジエータグリルなどの内外装部品、エアバッグなどのセーフティシステム製品といった自動車部品やLED製品の製造・販売を行っているメーカーです。



ゴム・樹脂・LEDの専門メーカーとして付加価値の高い製品を提供しており、カ

ーテンエアバッグやミリ波レーダ対応エンブレムなどは世界初の製品です。トヨタ自動車様が筆頭株主ですが、他の自動車メーカーにも部品を供給しており、売上は単独で3,628億円、連結で7,818億円(2015年度)となっています。



「基幹システムのオープンシステム化を進めており、DataDelivery導入もその一環です」(古山氏)

DataDeliveryを利用して帳簿を電子保存

— DataDeliveryをどのように利用されていますか

2014年4月から、電子帳簿保存法に準拠した経理データ保存について、DataDeliveryを利用しています。具体的には、10数種類の経理データを基幹システムから抽出して、DataDeliveryで保存しています。

導入の経緯

～経理データを自由に検索できるようにしたかった

— DataDelivery導入に至る経緯について教えて下さい

従来の帳票システムでは、経理データを帳票印刷データ(スプールデータ)をイメージで保存しており、電子帳簿保存法の要件も満たしていました。しかし、日付や金額で検索できないなど検索機能が弱かったり、データの抽出や並び替えが自由にできませんでした。「電子帳簿保存法に必要な機能は備えているが、利便性に難があった」という状態でした。



「データを自分で加工して利用したい部門には、DataDeliveryからCSVで流すこともできます」(杉村氏)

そうしているうちに、経理データを収集するシステムを、オープン系の基幹システムに移行するプロジェクトが全社で動き出しました。それに合わせる形で、同じく老朽化していた帳票システムも新しいシステムに入れ替え、検索や抽出により便利なツールを導入することになりました。

— DataDeliveryを選ばれた理由は何ですか

当然、他社製品も検討したのですが、従来型の帳票イメージデータとデジタルデータを同一システム上で管理(保存・検索・抽出)出来る製品が他には無く、DataDelivery一択のような状況でした。電子帳簿保存法に準拠していることはもちろんですが、データの検索・抽出が自由にできる点と、大量データ検索時のレスポンスの良さがとても魅力的でした。

— DataDeliveryの導入は円滑に進みましたか

導入前に1カ月間、経理データを入力し、従来の帳票システムとDataDeliveryとでデータの差異がないかを比較するなどのテストを行いました。結果としては差異もなくテストも短期間で済み、切り替えも含めて非常に円滑に導入できました。運用開始後もトラブルはありません。

導入の効果

～年間300万円のコストダウン

— DataDelivery導入の効果について教えてください

DataDelivery導入以前は、帳票データ以外に経理データを独自に7年分を紙で保管し、社外の倉庫代だけで年間300万円の経費が掛っていましたが、これを廃止することができました。これに社内での保管費用や人件費などを加えたらと考えると、実際に圧縮できたコストはかなりの金額になるでしょう。また、2012年より全社的にペーパーレス活動を行い、紙帳票の電子化を進めていますが、DataDelivery導入の効果を含め後、経理帳票の紙出力が165万枚から80万枚に減りました。



「以前から電子帳簿保存法に準拠した検索機能の強化を求められていました」(土井氏)

— 導入時のJFEシステムズの対応はいかがでしたか

大きなスケジュールは弊社主体で粛々と進めることができました。細かいところでの困り事に対しては、その都度的確なアドバイスももらえたので円滑に導入できました。一例としては、経理データをDataDeliveryに取り込む形式へ変換する際、データ1行のカラムが多いものや、カラムのデータ形式の指定でうまくいかなかったことがありました。このような場合に何度も相談し、ノウハウを得て解決しました。

DataDeliveryの導入を検討中の企業様へのアドバイス

— DataDeliveryの導入を検討中の企業様に対して、アドバイスがありましたらお願いします

DataDeliveryはCSVデータを取り込むことが可能なため、Oracleなどのデータベースを利用している仕組みとは親和性が高いと感じています。特に、当社のようにERPパッケージを基幹システムで利用している企業であれば、更にその親和性は高くなるでしょう。DataDeliveryを使えばERPからデータを取り出して保管することが手軽に行えるので、非常に使い勝手が良い仕組みだと思います。

当社でも年配の社員は未だに資料を「紙」で欲しがる人が少なくないですが、若い社員は全てを「データ」で求めてきます。もうそういう時代だということです。

DataDeliveryのさらなる活用に向けて

— 今後の取組みのご予定について教えてください

現在、まだホストに約3,000帳票あり、それらは帳票イメージで保存されているので、データの加工ができません。更に、取引先数の増加に伴い扱う帳票数も増えており、紙で処理しては業務が追いつかない状況に陥る可能性があります。今後は、DataDeliveryにデータを取り込んで、エクセルなどで処理・加工できるようにし、業務が円滑に処理できるようにしたいと考えています。



「導入作業時は、JFEシステムズに相談することで不明点も円滑に解決できました」(川面氏)

— 今後のJFEに対する期待について教えてください

豊田合成では、業務拡大に伴い業務の効率化を進めています。先ほど述べた約3,000帳票のデータ化をはじめ、帳票の電子化をどう進めるべきなのかについては、多くのユーザ企業を持つJFEシステムズならではのノウハウを提供頂ける事を期待します。また、今後もこれまで通りの細やかなサポートをお願いしたいです。

お忙しい中、貴重なお話をありがとうございました。



JFE システムズ 株式会社

東日本エリア: 03-5418-2377

〒105-0023 東京都港区芝浦一丁目2番3号(シーパンスS館)

西日本エリア: 078-232-5365

〒651-0083 神戸市中央区浜辺通五丁目1番14号(神戸商工貿易センタービル)

E-mail: fibrIDGE@jfe-systems.com <https://www.jfe-systems.com/>